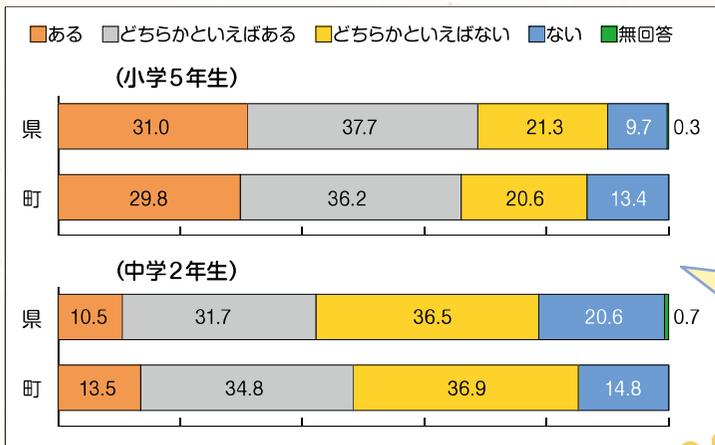


香川県学習状況調査質問紙調査の結果 (R7年度実施)

今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。



左のグラフを見ると、肯定的な回答をした者の割合は、中学生に比べて小学生の方が高くなっています。町と県の割合を比べると、小学生では町が低くなっていますが、中学生では町の割合が高くなっています。

また、同じ設問について、前年度の結果と比べてみると、中学生は、ほとんど変わりませんが、小学生では、前年度より8ポイントも低くなっています。

地域の魅力を学ぶことが大切！



かりん学習(仲南小)

地域の魅力を学ぶ



名勝 満濃池

故郷 (文部省唱歌)

作詞：高野辰之
作曲：岡野貞一

3 こころざしを 果たして
いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと

2 いかにいます 父母
つがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと

1 うさぎ追ひし かの山
小ぶなつりし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと



「故郷」の歌詞には、故郷の美しい自然(山、川)や子ども時代の思い出への懐かしさ、離れた場所で親や友を気遣う気持ち、そして立派になっていつか帰りたいという希望が込められており、時代を超えて多くの日本人の郷愁や故郷への思いを呼び起こす歌です。東日本大震災後には、被災者が故郷へ帰りたいと願う気持ちと重なり、涙を誘う歌として歌われました。

まんのう町子どもたちにとって、今を生きる地域は、そこに大切な人がいて、豊かな緑や美しい景観などの自然環境、伝統行事などの文化や歴史、郷土料理、人々のつながりなどのある、将来にわたってあたたかな心の居場所となるべき場所でしょう。

大人になってどこで生活をしていても、思いを馳せる地域(ふるさと)があることは、生きるための支えとなるだけでなく、夢や希望を持って行動する原動力ともなり得るものです。

そんな地域について学び、その魅力を知ることが、子どもたちが地域への愛着や誇りを持ち、自己認識を育み、自分は何を大切にしたいのかを模索し、よりよく生きるための基盤につながります。また、地域の方とかわる中でコミュニケーション能力の向上を図ることもできます。

町内のこども園、小・中学校では、日々の保育、教科や総合的な学習の時間、特別活動などの時間に、地域(まんのう町)の魅力学ぶ学習や活動を行っています。

次のページでは、具体的にどのような学習や活動をしているのかを見ていきます。

参考・引用：「ふるさと教育」の充実に向けた今後の在り方について(まとめ) 令和4年3月 香川県ふるさと教育推進検討委員会

いろいろな場で学ぶ地域の魅力

子どもたちは、園・学校はもちろん、地域に出かけて様々な地域の魅力を学んでいます。各園・校で行っている活動を自然、歴史・文化、食、産業、人々のつながりの5つの観点から整理し、その一部を紹介します。



ふるさとかるた (琴南小)



高嶽かるた大会 (高嶽小)



地域の歴史や文化などを題材にしたかるたを使ったかるた大会を実施している園や学校もあります。

自然



ヨウソウリ見学 (琴南小)



森林センター (長炭小)



ひまわり学習 (仲南小)



散歩「あっこども團見つけた」 (高嶽小)

歴史・文化



おまつりごっこ (長炭小)



ししまいごっこ (満濃南小)

みんなが幸せに
過ごせますように



おまつりごっこ (四条小)



やなぎもち作り (高嶽小)



自然生態園 (四条小)



米作り (満濃南小)



そば打ち (琴南小)



イチゴ農家見学 (四条小)

人々のつながり

おじいちゃんおばあちゃん
一緒に楽しみましょう



ふれあいサロン (長炭小)



公民館祭りなどのボランティア (満濃中)



食



漬物作り (仲南小)



大鍋でうどん作り (琴南小)

産業



ひまわりオイル工場見学 (満濃南小)

子どもたちが地域の自然や人間、社会、文化、産業などと触れ合う機会を充実させ、そこで得た感動体験を重視することによって、地域のよさの発見、地域への愛着心の醸成、地域に生きる意欲の喚起をめざしています。

満濃南小学校では、総合的な学習の時間を通して、地域の自然や人間の営みにふれ、人と人との絆や命の大切さについて考え、教育課程の構築を進めています。

自立への教育

自立への教育は、本校で15年来継承してきた学校教育目標です。将来、子どもたちが社会の一員となり、未来を担う姿を考えた時、この自立の根底として「人と人との絆の大切さ」や「命のかけがえのなさ」を実感的に理解することが必要ではないかと考えました。そこで、この2つの視点から総合的な学習の時間の教育活動を見つめ直しています。

ここでは、昨年度充実を図った6年生の平和学習を紹介いたします。

1 戦後80年目の夏

昨年は戦後80年目の節目の年でした。その夏は戦争について学び、命の大切さを考える貴重な機会になると考えました。終業式の際、戦争が故郷まんのう香川に関わるものであること、神戸、吉野地区で264名もの戦没者が出たこと、高松空襲を伝えました。そして、身近な人から話を聞いた。本や映像を学んだりするように呼びかけました。

6年生には、これを夏休みの課題としました。子どもたちの記録を見ると、遺品を基に課読した親類の話や聞いた子、空襲や戦時中の生活等の体験談を聞いた子、校区にある慰霊碑を訪れ調べた子などがいました。戦争を自分の身近に感じることができたのではないかと思います。



原爆の子の像前にて

毎年6年生が秋の校外学習で広島平和記念公園・資料館を訪れ、千羽鶴を奉納しています。子どもたちがより一層、関心をもって見学し、折り鶴に平和への願いを込めたいと、事前の学びを分厚く丁寧に行っていました。

自然や人間の営みにふれ 命の大切さを考える
満濃南小学校



被爆体験を聴く

3 折り鶴に願いを込めて

千羽鶴を平和への願いを込めてつくため、6年生は行動を開始しました。全校朝会で、原爆の被害や佐々木禎子さんの折り鶴に込めたい願いを発表し、全校生に千羽鶴を共に折ろうと呼びかけました。

性別チームに分かれて折り方を教える合場をもったり、休み時間に自主的に集まって折り進めたりしました。みんなの力を結集してよりよくなりました。



性別グループで折り鶴づくり

(1) 映像や詩を通して

原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さん。その生涯を描いた映画「千羽鶴」を視聴しました。リレー代表に選ばれたほとんども、折り鶴が被爆による病に苦しむ姿に、子どもたちも胸を打たれていました。

原爆による被害や被爆した人の心に子どもたちが関心を持てるよう、読み聞かせの時間に、原爆詩集「小さな折り鶴」を読みました。詩を書いた自分たちと同じ小学生の子どもが、原爆によってこのような思いをしたのかを、絵や写真とつなぎながら想像しました。

(2) 語り部の被爆体験談から

県内に暮らす語り部の方から、自身の母親の被爆体験を伺いました。被爆直後の街、さまざま人々、香川から探りに来た祖母との奇跡的な出会い、後遺症など。切々と語られる話に、子どもたちはメモを取りながらじっと聞き入っていました。感想を見ると、語り部の方が伝えようとした命の尊さや平和への願いについて考え始めた様子が見られました。

4 広島を訪れて

10月、校外学習で広島を訪れました。子どもたちは原爆ドームや被爆した人の生活が感じられる資料を、真剣に見つめていました。

原爆詩の朗読会にも参加し、心を寄せた人の思いに、被爆して考えた様子が見られました。詩や資料の中からは、佐々木禎子さんが折った折り鶴のように、これまでの学びを通してふれてきたものもあり、それとつなぎながら学びを深めていきました。

原爆の子の像への千羽鶴奉納では、一心に平和を祈る子どもたちの姿が見られました。



平和を祈る子どもたち

5 平和への願い

12月、6年生はこれまでの学びを、呼びかけと合奏にまとめて発表しました。

「命や平和はあたり前のものではない。平和の大切さを私たちは受け継ぎ、伝え続けなければなりません。」

下級生や保護者も6年生の強い思いと願いに聞き入っていました。



学年発表

琴南こども園の朝には「おはようございます」の挨拶の後、「いっしょなやむり取り」があります。話している子どもたちの生き生きとした表情に、家での出来事を教えた、今どんな気持ちでいるのかを伝えたい、などの思いが透けて見えます。相槌を打ちながら「こちらまでいいよ」とした気分になれる一日の始まりです。

そんな風情ない風景に、子どもたちの生活は、家庭と園それぞれの生活が重なって成り立っています。

こども園では、園生活の中に、子どもと保護者が関わり合える活動を取り入れ、家庭と園とのつながりを深めたいと考えています。

よみあそびワークショップ

10月に、絵本を通じて心の交流を図ろうと、5歳児親子を対象に「よみあそびワークショップ」を実施しました。町立図書館スタッフのサポートにより、遊戯室の壁に100冊の絵本が並びました。まるで絵本に誘われていくようで、遊戯室の扉を開けた瞬間に「うわあー」と感嘆の声があがっていました。

親子で読む、それだけで子どもたちは嬉しそうでしたが、お互いに相手のことを思いながら相手のために絵本を選ぶことで、自分のために選んでくれた絵本を読むことを体験しながら、親子で気持ちを通わせることができました。それはそれはとても幸せな時間でした。

たのしいーらーんぱーティー

12月に、前年度まで行っていた生活発表会をへースに、形を変えて「たのしいーらーんぱーティー」を実施しました。子どもたちが



親子で絵本の世界に

子どもたちの幸せを願って
～家庭とのつながりを大切に～

琴南こども園



ちけつとはこちらです



しょうたいじょう・ちけつと

が招待状やチケットを手作りし、お家の人を招待しました。

0歳児・1歳児・2歳児の「くたものがり」に「こころ」では、子どもたちがお気に入りの果物や動物、ステジ上の木から変身し、遊びやおどりを披露しました。

普段と変わらない子どもたちの姿を見せることで、園の様子を知っていたへんじができました。

0歳児がステジの園長のところまで、せつせと果物を運ぶなどのアトラクションも飛ばすほど、リラックスして表現していました。

3歳児・4歳児の「ももへびばやしさん」では、ささそうとした登場の仕方や、踊っている最中の決めポーズなど、一人ひとりの表現に個性が光っていました。パン屋さんとお客さんの役になりきってのやり取りは、保育室で親しんでいる手遊びから発展したものです。遊びを披露する中で、4歳児がさりげなく3歳児を支える様子も見られました。

5歳児の「ころころの100かいだてのいえ」では、大好きな絵本からインスピレーションを受け、一人ひとりの子どもたちが、獅子舞の足、縄跳び、お給かきなど、みんなに楽しんでもらうことを披露しました。友だちや担任と意見を出し合う中でそれぞれの表現が磨かれ、友だちの前で自分の得意なことを表現することで自信を深めたようです。

保護者は子どもたちの思いを尊重



こまの穴から...

木子遊びと正月伝承遊び

1月に家庭教育学級で、親子での製作活動を取り入れた木子遊びを行いました。木工家の藤田つくしさんを講師に迎え挑戦したのは、こま作りです。香川県産の杉のいい香りや感触に癒されながら、親子でオリジナルのこまを完成させることができました。回っているこまの様子は様々で、とても素敵でした。

また、この日は保護者にも保育に参加していただき、園のあちこちで、福笑い、すごろくや叩あげなどの正月遊びを楽しみました。琴南こども園に代々受け継がれている「こま作り」や「かきまわし」などの伝統文化に触れることができました。



目はここでいいかな?

いろいろな活動を通して、子どもたちの世界が豊かになっていることを感じています。子どもたちが自分の力で未来を切り拓き、幸せに生きていけるように願っています。これからも家庭と園とがつながり、協同しながら、子どもたちを応援していきたいと思っております。



シリーズ「声」

第39回 教員1年目を終えて!

昨年4月に教員として採用され、初任者として教員生活をスタートした先生方がいます。慣れない環境の中でも、子どもたちとともに楽しいことや苦しいことを経験しながら成長した1年目が終わりました。そんな先生方の声を聞きました。

子どもたちと向き合っていくの大切さ

仲南小学校の2年担任となり、子どもたちと過ごしたこの1年間は、私にとって学びの多い1年でした。毎日元気がいっばいに登校してくる子どもたちの姿に、私自身何度も励まされました。2年生は、自分の思いを少しづつ言葉で伝えられるようになっていきました。一方で、まだ気持ちの切り替えが難しい時期でもあります。授業中に集中が続かなかったり、友だちとの関わりでつまずいたりする場面もあり、そのたびにどのように声をかければいいのか迷いました。うまく聞かれず反省する日も少なくありませんでした。それでも、日々の学校生活の中で、子どもたちは確実に成長していききました。初めは自信なさそうにしていた子が、手を挙げて発表できるようになったり、友だち同士で声を掛け合っている姿、最後まで活動に取り組み姿が見られるようになっていたりしました。そうした小さな変化を一緒に喜べるのが教師としての大きな楽しみでした。

また、「今日の勉強楽しかったよ」「できるよになったよ」と声をかけてくれたときには、この仕事のやりがいを強く感じました。何気ない言葉ですが、忙しい毎日の中で心に残る、忘れられない瞬間です。1年間を通して感じたのは、子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合っていくの大切さです。すぐに答えを与えるのではなく、子どもたちが自分で考え、挑戦することを見守ることも、教師の大切な役割だと学びました。2年生の子どもたちと過ごしたこの1年は、私にとって教師としての原点となりました。

支えてくださった先生方や一緒にがんばった子どもたちへの感謝の気持ちを胸に、これからも子どもたちとともに成長していきたいと思えます。



仲南小学校 教諭 野田 未優

新年度に向けて 確実に

教育懇談会を開催 (仲南支所)

校長部会



テーマ「学力向上
～教員と子どもが学び合う楽しさを感じて～」
R8.1.29

園長部会



テーマ「国のよさや強みを生かした園経営
～今年度の成果と課題から、今後に向けて～」
R7.12.18

小・中学校の校長先生、こども園の園長先生が、校区ごとに教育委員も交えて、今年度の取り組みについて振り返り、各校園の課題を持ち寄り、今後に向けて協議しました。校長部会では、学びの基盤となる生徒指導を大切に、教職員が足並みをそろえて、チームで支援できるように考えることや、若手教職員の指導力向上のために、学校内外のモデルとなる授業参観の機会を設ける、などの意見が出されました。園長部会では、子どもを中心とした日々の遊びや生活について、職員間で話し合っており取り組んでいることや、好きや得意を生かして、教職員も子どもたちもわくわく楽しめるようにしていく、などの意見が出されました。今後の学校や園の運営に期待します。

Chromebook 導入に向けた研修会



第1回：R8.1.7
第2回：R8.2.16 (満濃中学校)

令和3年度から一人一台端末の活用が始まりました。子どもたちは、授業はもちろん、学校生活のいろいろな場で、端末を活用しています。町では、令和8年度から子どもたちや教員が使用する新しい端末を導入します。新しい端末を先生活方がスムーズに使いこなせるように、使用方法や活用の仕方について学ぶ研修会を実施しました。



PC型をたためばタブレット型にも

幼小連携・接続研修会 R8.1.9 (仲南支所)

各校区ごとに、小学校とこども園・保育園の教員が今年度行った相互参観や、5歳児から小学1年生の時期の年間計画などについて成果と課題を話し合いました。そして、さらに連携・接続を進めるための方法を具体的に考えました。それぞれのグループでは、子どもたちの姿を思い浮かべながら、一人ひとりの子どもにとってよりよい連携・接続になるように話し合いました。年間を通して教員の相互理解が深まり、「子どもをまんнанかに先生がつながる」姿が見られ、有意義な研修となりました。



子どもたちの目線に立ち、常に楽しむ気持ちをもつて

保育教諭になり1年が経ちました。分からないことばかりでスタートした保育教諭としての生活は、振り返ってみると本当にあっという間で、4歳児14人の生活は、振り返ってみると本当にあっという間で、自分担任の担任と、最初の経験のある先生だっただけで、「自分が担任で申し訳ないな、もっと経歴のある先生が」「わたせんせい」と落ち込む日も多くありました。しかし、子どもたちが「わたせんせい」と名前を呼んでくれたり、私がしたことで子どもたちが笑顔になってくれたり、そんな些細なことでも嬉しくて、「自分のことなんか…」とネガティブになるよりも、「今の自分だからこそできることを子どもたちと全力で楽しもう」という気持ちを少しづつもつていこうと思いました。

毎日の子どもたちの生活は、「あの関わりで本当に良かったかな」「こうしたら良かったのかな」と悩むことばかりです。しかし、登園時の挨拶が大きい声で言えるようになってくると、子どもたちの成長をこんなに近くで感じられる保育教諭という仕事に、やりがいを感じるようになってきました。

保育教諭としての2年目となる今年度は、子どもたちと向き合っていくことが大切になっていきました。



行事や書類作成など忙しい日々が続いて、たんに保育を続けるだけになってしまったり、子どもたちの変化や何に興味があるのか、などを見落としてしまったりしないようにしたいと思えます。そして、気持ちに余裕をもつように心がけて、じつ是孩子たちの目線に立ち、常に楽しむ気持ちをもつて子どもたちと関わっていきたく思います。

長庚こども園 保育教諭 若田 芽衣

スクールバスなどの運行



仲南小学校スクールバス(3台で3方面へ)

町では、仲南地区の遠方から通う子どもたちが、仲南小学校、満濃中学校に安全に通学できるように、スクールバスを運行しています。

琴南小学校や長炭小学校の子どもたちの中には、路線バスを使って通学している子どももいます。その定期券の料金は、町が補助しています。

また、スクールバス以外にも、子どもたちの校外学習や部活動の対外試合などの移動手段として、バスを運行しています。

運転手より

いつも安全運転をするように心がけています。特に乗っている子どもたちがびっくりしてはいけないので、急ハンドルや急ブレーキをしないようにしています。



満濃中学校スクールバス

スクールバスは、通学時間以外の使用していないときには、マイクロバスと同様に町内のこども園、小・中学校の校外学習などの移動に使えるようにしています。

バスに乗って校外学習に行くことができるので、町内外のいろいろなところに出かけて学習をしています。



大型バスで民具資料館見学へ



マイクロバスで南部消防署見学へ

いろいろな校外学習先

ひまわりオイル工場



スーパー



ひまわり畑



広島原爆ドーム



国営讃岐まんのう公園



旧金毘羅大芝居



高松シンボルタワー



こんぴらさん



イチジク農家



ヨコトリ観察



総合教育会議 (R8.1.28)



平成27年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会制度が新しくなりました。これに伴い新設された「総合教育会議」が、今年度も開催されました。

今回の総合教育会議では、町教育振興計画の策定状況、こども園及び学校適正規模・適正配置に向けた状況把握、中学校部活動の地域展開などについて、活発に協議がなされました。

第8回 MIEA 英語朗読コンテスト

R8.1.10 (役場本庁)

※MIEA: まんのう町国際交流協会



今年で8回目を迎えたこの英語朗読コンテストは、あらかじめ提示された課題の英文を3分以内で朗読し、その発音や表現力を競うものです。今年は町内の小学校から22名(4年生6名、5年生5名、6年生11名)が参加し、練習の成果を披露しました。

今年の課題は、「Dreaming in the sky」(大空に夢を)「空の探検家」二宮忠八でした。

二宮忠八は、カラスが風に乗って滑るように飛ぶ様子を観察して飛行原理を発見し、日本で初めて動力で模型飛行機を飛ばすことに成功しました。忠八は、夢をあきらめないことのすばらしさを教えてくれています。という内容です。どの子ども大変上手に朗読をしました。

審査の結果、右記の3名が優秀賞に選ばれました。



- 4年 山本 真知(四条小)
- 5年 立井日奈子(高篠小)
- 6年 松村 拓哉(四条小)



花育「子ども未来夢基金」活用事業 科学体験教室

各園とも秋と冬の2回ずつ、それぞれの季節に咲く花を使って実施しました。

園児は、想像力をはたらかせ、自由な発想で美しいアレンジを仕上げました。



指導者: フラワーショップ「花友」

光で遊ぼう

毎年度2校ずつ実施
12.16 仲南小学校
1.26 長炭小学校



光(レーザー光線)で風船が割れた!

中の見えない不思議な箱(偏光板使用)

偏光板を使った万華鏡作り
きれいな模様が見えたよ

指導者: 香川大学創造工学部 鶴町徳昭教授



琴南こども園

編集後記

ふるさとの 山に向かひて 言ふことなし
ふるさとの山は ありがたきかな

歌人石川啄木の『一握の砂』に収録された作品です。故郷岩手の山を眺めた時の、言葉にならない安らぎや感謝、そしてその存在の大きさを詠んでいます。都会での苦しい生活や思い出が去来する中、変わらぬ山に対する深い愛情と敬愛が感じられる短歌です。

まんのう町には、名勝満濃池、大川山などの美しい自然、カリンやヒマワリなどの多くの特産物、そばやうどんなどの郷土食、大切にされている祭り、そして、それらを支える地域の人々の温かいつながりがあります。

人間形成の基礎となる幼少期や思春期を過ごしたふるさとは、どんな人にとっても格別なものでしょう。ふるさと「まんのう町」で、過ごしている子どもたちは、今後も、まんのう町のたくさんの魅力を学びます。その学びを通して、まんのう町は、これからの人生の中で、折にふれ思い出したり、つらい時に支えたりしてくれるふるさとになるのではないのでしょうか。

直木賞作家の重松清さんは講演の中で次のように語っていました。

ほくは日本語の中で「お帰り」という言葉が一番好きです。「お帰り」は帰ってくる人を待っている言葉です。

(中略)

ふるさとは、しんどい時に支えてくれるもの、もしかしたらそれは場所ではなくてお母さんの笑顔かもしれない。お父さんの背中かもしれない。風景かもしれない。懐かしむことで心置きなく泣けたら、それが一番幸せではないかと思います。

園や学校で体験した地域の魅力をより子どもたちの心にとどめるには、保護者も一緒に地域に出かけ地域の自然にふれたり施設を活用したりして、五感で感じた楽しさや驚きを共有することや、地域の人々と顔の見える関係を築くことが有効だと言われます。

子どもたちが、今後も地域のすばらしさにふれる中で、さらにまんのう町に愛着をもってくれることを願っています。

表紙絵：小西 恵里奈（満濃中学校美術部3年）

次号予告
（6月1日発行）

特集

園・学校ウォッチング

気をつけてね!交通安全

琴南小学校・仲南こども園